

— 贈る言葉（第7版への序文）

麻酔科研修へようこそ！！

大歓迎です。短期間であっても、この研修は「広大な臨床医学の土台」として貴重な役割をはたすことになるでしょう。

一方、手引きには当科で実行されている診療内容が具体的に記述されており、有益な役割を果たすでしょう。この研修を通して、とりわけ「気道の確保と人工呼吸」および「輸液・輸血療法」さらに「局所麻酔薬」と「痛みへの対応」についても学んでください。加えて、マスク換気、気管挿管、静脈路確保、持続導尿など各科共通の基本手技を身につける数少ないチャンスです。さあ元気に始めましょう。

本書の第1版は1975年11月に手書で、1998年第6版、そして2018年（平成30年）には最新版としてこの第7版が完成いたしました。

当初は3か月程度入門書として、手術麻酔管理を中心に書かれました。今回の大改訂では、心臓血管外科麻酔、産科麻酔、モニタリング、気道管理なども加筆しました。さらに、ペインクリニック外来、ICU、緩和医療の概要にも言及し、数年間の研修に役立つよう配慮いたしました。総論部分の熟読もお願いします。特に患者や家族との対話を重視し、人権尊重の姿勢を堅持されることを切望いたします。

本書の執筆には中央病院麻酔科スタッフを中心に勤医協札幌病院、道東勤医協釧路協立病院、道北勤医協一条通病院麻酔科の指導医にも加わって頂きました。感謝の念を込めてお礼申し上げます。参考までに以下の事項を付け加えました。

① 北海道勤医協の麻酔科は1970年12月勤医協札幌病院開設にはじまり、中病（1975年6月開設、2013年5月現病院へ移設）、西区病院（1986年5月開設、のちに閉鎖）、道東勤医協（1990年5月）、道北勤医協（1985年10月）へと進展、札幌、道東、道北にはそれぞれ1名の指導医が常勤医として勤務しております。中病の常勤医は8人（うち指導医は4人）、他に数人の非常勤医と研修医で構成されています（2018年1月現在）。苫小牧病院は週1回中病で支援しております。

尚、1979年4月中病は日本麻酔科学会より麻酔指導病院に認定、1994年10月には日本ペインクリニック学会指定研修施設に認定されました。念願のICUは1996年旧中央病院に開設、そして2013年5月に新病院へ移設され、2017年4月より日本集中治療学会認定施設に認定されました。

② 一方、1975～2015年の40年間に、中病では1～3か月研修を中心に300人余の医師が初歩的研修を終了しました。この中には、鹿児島、福岡、青森、大阪、愛媛、沖縄、広島、神奈川、山形、京都、茨木、群馬、愛知など全国各地の民医連の医師も含まれております。

また、新研修制度は2006年にはじまりましたが、2008年から救急救命士の気管挿管実習の指導も依頼されております。2015年末までの7年間で、美唄、当別、小樽、石狩消防署から30人余がそれぞれ30例の挿管を経験いたしました。尚、勤医協札幌看護専門学校講義、実習は1979年の開校以来継続しております。

手術室における麻酔科の業務は航空管制塔の役割にも例えられます。この機能が不十分であれば、患者の生命と安全が著しくおびやかされるのは必至です。

2016年5月福岡市において"命をつなぐ水脈となれ"をテーマに第63回日本麻酔科学会学術集会が開催されました。皆様がこの研修で"命の水脈"の意味を深められることを期待いたします。

折々の初心を思い起こし、

謙虚な学びを続けてください。行け、勇んで！！

2018年（平30）1月末日
中央病院麻酔科顧問（1965年卒）
小田代 政美
おだしろ まさみ